教育相談余話⑥

たくましい南国の母と子

南国市教育相談所　高石文一

母と子が来所したらしい。玄関で女の子の声がする。

『お母さん、いかん。ここへ、ちゃんと置かんといかん。』

玄関にはき物を置いて入ろうとしたお母さんに、下駄箱に入れる指図をしているらしい。

ところで、入ってくると、

『先生に、ちゃんとごあいさつせんかね。』と、今度は母親が言う。

『まあ、気のきくお子さんですね。ところで、どうしました。』

『いいえ。三年生ですが、横着ばっかりで、いちいち口返事をしてひとつも言うことをききません。ほんとうにこんな子があるものでしょうか。』

『お母さんはやさしいように見えるけど、むちゃなことを言うかね。』『はい』

『私達親子は、どうしてこんなに仲が悪いのでしょうか。こんな母親ではいかんと思いますが、いちいち口返事をして言うことをききませんので、復がたって、もうこんな子はおらんがまし、と思うことがあります。』

『そうでしょうね。しかし、時にはかわいい、抱きしめたいと思うことはあるでしょう。』

『それはあります。』

『それなら上等です。テレビは、やさしいお母さんとかわいい子が抱き合っているようなところだけ見せていますが、みんないつもそうしているものではないのですよ。

親と子、夫と妻、兄姉と弟妹、友達でも、人間関係はみなかわいいところと憎らしいところが必ず両方あって、一方だけのものはないのです。あるのが当り前です。

〝お母さんはやさしくていつもにこにこしていて、一度も大きな声を出したことがありません〟〝うちの子は素直でいつもハイハイと言って、何でも言う通りにします〟と人前でそうは言っても、三歳を過ぎてからほんとうにそうであったら、かえって変で、どこかに何かがひっかかっています。そういう親子があったら相談にくるよう勧めてください。

人間は生きている限り、憎らしかったり、かわいかったりします。それが入り交っていく。その程度の強いほど、いきいきとしているとも言えるでしょう。

このような子どもさんは、お母さんが勉強しなさいと言わなくても、よく自分で計画をたてて勉強しているものです。お母さんは、よい点を認めてあげてください。気をつけて見れば、我が子ながらほんとうによくやっている、と思うことが次々あるはずです。

さて、これから親子対抗でボール遊びをしましょう。』

親子で、きゃあきゃあ言いながら勝敗を争う。

『今日から、このお子さんは変わっていきますよ。どう変わっていくか、お母さんは気をつけて見ていてください。毎日通ってくるほどのことはありません。週一回でよろしいでしょう。』

ところで、三日目に来た。

『今日は先生の研究会で早めにあがりましたので来ました。ボール遊びをおもしろがって、ぜひ来たいといいますので……。』

『よろしいですよ。お母さんと過ごすのがこんなに楽しいものか、それを味わっていくことがよい子になる大事な条件です。』

高石相談員

それから一カ月、誰が見ても、仲のよい親子と見られるようになったので、相談はこれで完結した。

休みになり、暑中見舞のはがきがきた。

「先生おげんきですか。一学期は、算数、理科、社会の三つが◎になりましたので、お母さんにほめられました。今はあまり、お母さんと言い合いをしていません。」そばに母親の添書きがある。「近頃はあまり口返事をすることもありません。炊事の手伝いも、よくしてくれるようになりました。」

先日、運動会があり立ち寄った。お母さんが姿を見つけて、寄って来られて会釈した。その前を、わあっと言う歓声におくられて、かけて来た一団がある。

その先頭をきって、すぐわかる前かがみの特徴のある姿勢でかけぬけていった、白はち巻きの女の子を見た。『あっ、あの子だ。』

何千人の向うから、大平洋の上を吹き渡って来る風に、校庭の桜の葉がゆらいでいる。

輝やく太陽と青い空のもとに、たくましく親と子が育っている。ほんとうに南国はよいところだとつくづくと思う。

◇…相談所は市民体育館西側の大篠公民館のなかにあります。相談日は原則として、月、水、金、土曜日ですが、相談にいく場合はあらかじめ電話か手紙で連絡してください。連絡先は☎③3957